

令和4年度第1回大和市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和4年5月18日(水) 14時00分～14時50分
- 2 場 所 大和市役所 5階 研修室
- 3 出席者 市長 教育委員会(柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、及川委員、前田委員、森園委員)
市職員(政策部長他10名)
- 4 傍聴人 なし
- 5 議 題 (1) 令和4年度の教育大綱関連事業について
- 6 資 料 ・ 次第
・ 【資料1】教育大綱関連事業一覧
・ 【資料2】令和4年度の教育大綱関連事業について
・ 【資料3】大和市教育大綱

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題
(1) 令和4年度の教育大綱関連事業について
所管部 : (資料について説明)

教育長 : 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、社会的な制約は、少しずつ緩和されつつあるが、市内小中学校では、年度当初から学級閉鎖に入ったクラスもあるなど、まだまだ予断を許さない状況が続いている。引き続き、感染対策をしっかりといいつつ、子どもたちに学びの場を提供していきたいと考えている。さて、教育に関する事業や、教育大綱に関連する事業が数多くある中、今年度も新たな取り組み、充実する取り組みなどにおいて、目的達成に向け各事業を進めていく。それぞれの目的を明確にし、大和市の教育が一層充実していくよう各事業を推進していきたいと思う。

教育委員:方針①「すべての子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します」の民間保育所建設・増設支援事業について、意見と質問をさせていただく。仕事や病気などのために家庭で保育ができないお父さん、お母さん方にとって、子どもを預けられる場所があるということは大変重要なことである。このよう

な中、大和市が7年連続待機児童ゼロを実現できていることは、とても素晴らしいことだと思う。

私が子育てをしていた頃、駅に向かう途中にある保育所に預けられることとなり、非常に助かったことをよく覚えている。家の近くや、通勤途中といった便利な場所にある保育所に預けられると、子育て中のお父さんやお母さんの負担を減らすことができると思う。子育て中の保護者にとって利便性の高い保育所が増えて、希望の保育所に預けられる人が増えていくことを、期待している。一方で保育所等の数が少ない地域では、一つの施設に多くの子どもたちが預けられ、保育士の方々がとても苦勞されているとも伺っている。保育の担い手である保育士の方々を支えることも重要である。既存の施設の保育環境等の充実にも、力を入れていただきたいと思う。

新たな保育所等を整備する地域について、何か基準や参考になっている意見等はあるのか。

所管部 : 開所予定年度の前年度4月1日時点において、入所が保留となった児童の人数や地域、年齢等を分析しながら保育の需要が高い地域を見極め、当該地域で整備することができる運営法人を公募している。また、市街化調整区域、洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等に該当しないことのほか、就労している保護者の利便性向上の観点から、市内各路線の駅までの距離や、既存保育所との距離、園庭の有無等を総合的に勘案し、運営法人及び地域の選定を行っている。

教育委員 : 方針⑦「健康に関する教育を推進します」の3歳6か月児健康診査事業と産後ケア事業について、意見と質問をさせていただく。

3歳6か月児健康診査は、3歳6か月児の発育や発達等を確認することで、支援が必要な幼児の早期発見や早期対応ができるだけでなく、日ごろの心配事や気になることを医師や保健師、管理栄養士などに相談できるともよい機会である。

3歳6ヶ月の際に受診できなかった未受診家庭に対し、早期アプローチを行い、健康診査の受診を促すため、家庭訪問等で受診を勧奨されていること、コロナ禍において再受診の期間を長く設定していることは、より多くの幼児が受診できることとなり、大変素晴らしい取り組みだと思う。

また、今年度から、視覚機能の検査に精度の高い機器を導入することで、家庭では気づきにくい、軽度の弱視を早期に発見し、治療を受けられるようになることと伺った。早期の治療が肝心とのことなので、一人でも多くの子どもの視覚機能が回復すると良いと思う。

3歳6か月児健康診査は全国的に高い受診率であると伺ったが、大和市の受診率はどれくらいか。

今まで視覚検査は問診票をもとに行われていたと思うが、新しい機器を導入し

たのは、何かきっかけがあったのか。

大和市では、これまでも子育て世代のお母さんに、様々なサポートを行われているが、コロナ禍で出産後、周囲のサポートが受けづらいといった悩みが多く寄せられていると伺っている。

産後間もないお母さんが、市内の産科医療機関で、心身ケアや医療サポートを受けられることは、とても素晴らしいことである。一方、生まれたばかりの小さなお子さんを連れての外出で、大変な思いをされている方もいらっしゃると思う。新たに実施される、助産師がご自宅に訪問し育児相談等を行うことで、安心して子育てができる方が増えるのではないかと。

子育て世代の皆さんには、それぞれ家庭の事情などがあることから、一人ひとりに目を向けて、大和市で安心して健康な生活が送れるよう、引き続き、取り組んでいただきたいと思います。

多くのお母さんが利用できるようにする必要があると思うが、どのように周知しているのか。

所管部 : 3歳6か月児健康診査の受診率は平成30年95.9%、平成31年95.7%、令和2年90.1%、令和3年94.7%で推移している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、健診の実施を一時延期していたことにより受診率が低下しているが、健診対象年齢を4歳まで拡大して受診勧奨をするとともに、全ての未受診児に対し、訪問等により心身の状態を把握した。令和3年度は、健診の回数を増やし、受診率は回復傾向にある。

視覚検査については、昨年7月に日本眼科医会が「3歳児健診における視覚検査マニュアル」を改訂し、弱視を見逃さないよう、より精度の高い屈折検査の導入は不可欠との見解が示されたところである。また、今年度から屈折検査機器の整備に対する国の補助金が新設されたことを踏まえ、市として導入することとしたものである。

本市では、親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に、保健師が全ての妊婦やその家族と面談を実施しているため、その際に、産後ケア事業についての案内ちらしを渡して、1人1人に説明を行っている。また、出産後の乳児家庭全戸訪問の際にも案内しているほか、市ホームページに掲載して、周知を図っている。

教育委員 : 方針②「新しい時代を生きる子ども一人ひとりの確かな学力を育みます」と、方針③「様々な体験を通し、豊かな感性を育みます」の学力向上対策推進事業について、意見させていただく。

昨年度も、前年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学級閉鎖となるクラスもあったが、学校現場と連携し、子どもたちの学びを継続することができた。

今年度は、日々の学校の授業や、放課後寺子屋やまとは加えて、一人一台PC端末にオンライン学習システム「スタディサプリ」を導入し、動画教材やデジ

タルドリルを活用することで、学年の枠を超えた学び直し学習や、先取り学習ができる環境を整えた。一人ひとりの学習ニーズに合った教材をAIの分析によつて的確に提供していくことで、子どもたちの学力の向上に寄与するものと期待している。

また、国では、今年度から小学校高学年の教科担任制の導入が決まった。大和市では専科として、一部の教科ですで行っているが、今後、本格導入された際には、教員の負担軽減が、指導力の向上や、子どもたちの学習及び学校生活のより一層の充実につながることを期待している。

所管部 : コロナ禍が続くなかでも、学校では「コロナ禍なので実施しない」ではなく、「コロナ禍でもいかに学びの機会を創り出すか」という視点で取り組んでいる。今年度から導入される「スタディサプリ」においては動画授業とAI機能を備えたデジタルドリルを組み合わせることにより、個別最適な学びがより充実することを期待している。一方、高学年教科担任制についても、導入することで生まれるであろう教員の時間が、児童生徒へ向き合う時間の確保に繋がるよう、先行実施校と連携しながら成果や課題について整理していく。

教育委員 : 方針④「安全で安心して学校生活を送れる環境を整えます」の小学校大規模改修事業について、意見させていただく。

本市では、市立小・中学校の施設管理にあたり老朽化した学校施設の整備・改修を、計画的、効果的に実施してきた。

いわゆる35人学級を段階的に実現するために、今後の児童数の予測をもとに、普通教室数の不足が見込まれる小学校において、特別教室を普通教室に改修する工事を行う。

特に大規模な工事の期間中は、児童に不便を強いることになるので、児童や学校の負担を出来るだけ軽減するように、予定された期間内に工事がスムーズに行われ、速やかに安心安全でより良い学校生活を過ごせる環境を整えたいと思う。

所管部 : 「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律」が令和3年4月1日より施行されており、本法律は、小学校の学級編制の標準を5年間かけて段階的に40人から35人に引き下げるものである。児童生徒数の予測を基に、令和5年度における各学校の教室が不足しないよう、今年度は市立林間小学校および市立西鶴間小学校において、PC教室を普通教室に改修する工事を行う。工事期間中は、児童の学習環境を著しく損なうことのないよう、安全の確保や適切な学習環境の確保に配慮して工事を行っていく。

教育委員 : 方針⑥「放課後の居場所づくりを推進します」の放課後児童クラブ事業について

て、意見と質問をさせていただく。

保護者が働いていたり病気などにより、家庭で放課後等に健全な育成ができない時に、子どもたちが安心して過ごすことができる放課後児童クラブは子どもたちの居場所としてとても大切な場所となっている。特に共働きの家庭が増えている中で、今後もニーズが高まっていくと思う。このような中、8年連続待機児童ゼロを大和市が達成していることは、大変喜ばしいことである。

一方、私が実際に児童クラブを訪れてみた時のことだが、多くの児童が限られたスペースで過ごしていた。指導員の方からも、学校施設に使用できる部屋がなく、雨などで外に出られないときは大変込み合ってしまう、対応に苦慮していると伺っている。

子どもたちにとって安全・安心な場所となるよう、教育委員会や各学校と連携を取りつつ、引き続き事業を積極的に進めていただきたいと思います。

今後、児童クラブの活動スペースを、どのように確保していくのか。

所管部 : 学校敷地内の専用施設や校舎内で常時使用している居室のほか、放課後における学校の特別教室等を借用したり、民営の児童クラブを活用したりすることによって、入会を希望する全ての児童を受け入れている。

今後についても、学校施設の利用について、学校や教育委員会との調整を図るとともに、小学校敷地内への施設整備を基本としながらも、各地域の状況に合わせた方法を検討し、放課後児童クラブの居室確保に努めていく。

教育委員 : 方針④「安全で安心して学校生活を送れる環境を整えます」のいじめ等対策事業について、意見させていただく。

いじめの発生を未然に防ぐために、当たり前のことだが、他者を傷つけるいじめは、絶対にしてはいけないということを、啓発し続ける必要がある。子どもたちの中には、自分の言動が相手を傷つけている、と認識がないまま、行動している場合もあるだろう。

私たち大人は、子どもたちに、一人ひとりの感じ方が違うということを理解させ、他者とどのように関わっていくのが良いかを考えさせなければいけない。そこには、家庭での教育がとても大切である。学校と家庭が連携し、いじめが発生することのないよう見守っていく必要がある。

しかし、いじめが発生してしまった場合には、早期対応がとても重要である。普段子どもたちと接している大人が、気づくことが一番だが、今、SNS上のいじめなど、発見しづらいものが増えてきている。そこで、匿名報告・相談アプリを、市内の全中学生だけでなく、小学校5・6年生も利用できる環境を整えた。子どもたちからのSOSサインを受け取る一助として、効果的に活用していく。このような環境整備によりSOSサインの発信をためらうことのないよう、その要因を取り除くことが必要だと思う。

こういった取り組みにより、いじめを受けて辛い状況にある子どもが、すぐに

周りの大人たちに相談できる環境が整ってきた。私たち大人は子どもが発するいじめの兆候にすぐに気づけるよう、これからも注意深くいじめ対策に努めていきたいと思う。

所管部 : 児童生徒の安心な学校生活のため、指導の中核となる教諭を対象とした協議会において、いじめ未然防止と早期発見を周知徹底するほか、今年度は各学校における訪問研修を実施する。また、小学校5・6年生を対象を拡大する匿名報告・相談アプリに関しては、スマートフォンやタブレットでの使用だけでなく、一人一台端末でも使用できるようにし、活用に関しての授業を展開するなど、今後も学校のいじめ対策の取り組みを支援していく。

教育委員 : 方針⑧「あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します」の図書館管理運営事業について、意見と質問をさせていただく。

大和市が「図書館城下町」として発展を続ける中、シリウスにある図書館の蔵書が、更に充実されるとのことで、とても嬉しく思う。また、大和市は借りた本を市内の至る所で返却することで、図書館を利用しやすい環境が整っていて、私の周りからは「常に本を借り読んでいます」といった、喜びの声をよく耳にする。今後も、本を身近に感じられる図書館運営を続けていただきたいと思う。

ふと手にした本が面白かったりすると、子どもたちは、たちまち本を大好きになることがある。大和市では、多くの子どもにとって初めて触れる本となる絵本に関する、様々な取り組みが始まると伺った。本に触れる機会が増えることは、とても良いことである。幼児期における絵本との出会いは教育のスタートであり、知力の入門である。子どもたちには身近な本を通じて読書に興味をもち、豊かな心を育てて欲しいと心から切に思う。

先月、下福田中学校が「子供の読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰」を受賞し、大和市の中学校が2年連続で表彰された。本の年間貸出数が市内の中学校で最も多くなるなど、これまでの取り組みが評価され本当に嬉しく思う。教育委員会としても、子どもたちがスマートフォンや1人1台PC端末といったICT機器に触れる機会が増えている中、デジタルではなく実際に本を手にとって読書することは、子どもたちの想像力や論理性を培うとても大事なものと捉えている。引き続き、学校図書館を中心とした、子どもたちの読書活動に力を入れていただきたいと切に願う。

本を全く読まない、子どもたちがいる。そのような子どもたちに、本に興味を持ってもらう施策を何かお考えか。

所管部 : 近年は、子どもたちの間でも、スマートフォンやタブレットなど電子端末の利用割合が増加している。

こうした背景をふまえ、今年度から、これまでは指定管理者が自主事業として

提供していた電子図書館サービスを大幅に拡充し、本に触れるきっかけとして、子どもたちの身近にある電子端末を活用した電子書籍による読書推進を図っていきたいと考えている。

また、従来の紙媒体の本についても、子どもたちの興味を引きやすい映画、ドラマ、アニメの原作本やノベライズ本等、動画コンテンツに関連した書籍を積極的に紹介したり、小中学生に人気のある本を市立図書館でも蔵書を増やし学校に貸し出す仕組みを充実したりするなど、これまで以上に気軽に本に触れられる機会を増やし、子どもたちの読書への関心を高めていきたいと考えている。

教育委員：方針⑤「多様性を尊重し、他者と共に生きる社会性を育みます」の引地台中学校分教室整備事業について、意見させていただく。

不登校状態が長期化した生徒を支援するため、不登校特例校として引地台中学校分教室を今春開室し、13人の生徒たちを迎えることとなった。県内の公立校では初めて、ということもあり、市民や保護者の方からも大変注目があつたと思うが、初日から子どもたち全員が分教室に登校していると聞き、とてもうれしく思う。今後も、子どもたち一人ひとりのペースで、社会的自立に向けた第一歩を踏み出していただければと思う。

また、分教室は、外観や入口へのアプローチで校舎感を出さないようなデザインとし、教室の代わりとなる「学習スペース」では、全室にタイルカーペットを敷き、クッションなどを置いて、生徒がリラックスできる居心地の良い環境づくりを目指して、いわゆる硬い「学校」、「教室」のイメージを消し、明るい学習環境となるよう努めて作っていきたい。今後は、生徒の状況に応じた、また、学校や生徒の意見も取り入れた学習環境づくりを行っていく。

この分教室は、本市の不登校対策の重要な役割を担っている。分教室に通う生徒だけでなく、すべての小中学校における不登校対策をリードし、引き続き、市内の不登校状態が長期化した児童・生徒への、社会的自立に向けた支援を進めていく。

所管部：新たな第一歩を順調に踏み出した生徒たちではあるが、本人の意識や通室状況が変化することも視野に入れ、生徒に寄り添いながら、実情に即した支援を図っていく。生徒一人ひとりの状況に合わせた柔軟な学習計画のもと、子どもにとって無理のない学校生活を送りながら社会的な自立を目指していく。また、令和4年度は、2階理科室の改修工事を行う。他のスペースと同様、既存の校舎感を出さないように工夫すると共に、様々な学習活動が行えるような学習環境の整備に努めていく。現在通室している生徒・これから入ってくる生徒の発想や意見を取り入れながら、生徒にとって居心地の良い空間となるように、自分たちで創り上げていくという「手作りの部分」も生かして「学校らしくない学校」の改良を重ねていきたい。

教育委員：方針⑨「人生100年時代」に輝く「学び」の取り組みを推進します」の健康都市大学事業について、意見と質問をさせていただく。

人生100年時代を迎えるなか、大和市の健康都市大学事業はとても素晴らしい取り組みだと思う。市民による市民のための開かれた学びの場として、参加しやすく多様な交流を生み出すことを目的とした「健康都市大学 月イチ学園祭」を今年度から開催されると伺った。4月に開催された初の学園祭には、多くの市民の方が参加され、健康や福祉の分野だけではなく、様々なジャンルの催しを楽しそうに見て回っていたと伺っている。1人でも気軽に行ける居場所ができることで、自発的な外出意欲が生まれることと思う。幅広い世代の方が積極的に参加され、市民同士の繋がりが生まれるよう期待している。

多くの市民の方に健康都市大学にご参加いただけるよう、どのような工夫をされているか。

所管部：月イチ学園祭については、多くの方にご来場いただけるよう、興味を惹く魅力的なラインナップを検討しながら進めている。初めての試みということもあり、試行錯誤を繰り返しながらより良いものをつくっていかうと考えているところである。開催の周知は、やまとニュース、PSメール、ホームページなどで行っているが、市民の皆様の口コミによって当学園祭の楽しさが広がっていくことを期待している。

このほか、健康都市大学では各種講座も開催されているが、3つの学部を網羅したガイドブックの発行、広報やまとへの市民でつくる健康学部のスケジュール掲載、ポスターやチラシなどの媒体を多用して、健康都市大学の取り組みのPRに努めている。

また、今年は市民講師の皆様のモチベーション向上につながることを期待し、市民講師バッジの制作も予定している。市民講師の方々にバッジを身に付けていただくことによって、ご自身の活動に誇りを見出していただき、更には、新たな市民講師登録の呼び水になることも願っている。

教育委員：新型コロナウイルス感染症が市民生活や企業活動に影響を与え続け、感染症の収束やその後の社会経済情勢などを見通すのは難しい状況の中、今年度も、教育大綱関連事業について、多くの予算を確保していただき、教育委員会としては、大変感謝している。

コロナ禍にあって世界が大きく変容した。家族を中心とした人との関わり方、仕事、時間、距離、教育の仕組み冠婚葬祭をはじめ、伝統芸、祭りなど季節を感じながら生活してきた日本人の習慣そのものを変えざるを得なかったものが数多ある。

このような世の中で、いただいた予算を最大限活用して、子どもたちや生徒たちが希望を抱き、安心して生活できるよう、刻々と変わる状況に柔軟に対応していきたいと考えている。

4 その他

5 閉会